ワクチンで予防できる犬の病気
（狂犬病を除く）

病　　名	症　　状
犬ジステンパー	空気感染などによってうつる病気です。発熱、下痢、神経症状などが起こり、全身がおかされ、治ってもいろいろな後遺症に悩まされます。1歳以下の子犬に発病することが多く、死亡率も高い病気です。
犬アデノウイルス2型感染症	空気感染などによってうつる病気です。アデノウイルスによる感染症で、肺炎や扁桃腺炎など呼吸器病を起こします。
犬伝染性肝炎	犬同士の接触、屋外の土壌などからうつる病気です。これもアデノウイルスによる感染症で、肝炎を主とし、嘔吐や下痢、食欲不振などが起こり、目が白く濁ることもあります。子犬では突然死することもあるこわい病気です。
犬パルボウイルス感染症	犬同士の接触、屋外の土壌などからうつる病気です。血液の混じったひどい下痢や嘔吐を起こす腸炎型がよく知られていますが、子犬に突然死をもたらす心筋型もあります。伝染性が強く死亡率も非常に高いこわい病気です。
犬パラインフルエンザ	空気感染などによってうつる病気です。「ケンネルコフ」と呼ばれる犬のカゼ症候群の主な原因です。激しいセキや肺炎を起こしますが、アデノウイルスや細菌と混合感染すると症状はさらに重くなります。
犬コロナウイルス感染症	犬同士の接触などからうつる病気です。腸炎を引き起こす感染症です。下痢や嘔吐が起こります。パルボウイルスと混合感染すると,お互いが協力し合って症状は一層重くなります。コロナとパルボを一緒に予防することが大変重要です。
犬レプトスピラ病（黄疸出血型、カニコーラ型）	犬同士の接触、屋外の土壌、水などからうつる病気です。細菌によって腎臓や肝臓が侵される人と動物に共通の怖い伝染病です。いろいろなタイプがありますが、代表的なのは歯ぐきの出血や黄症がみられる黄疸出血型（イクテロヘモラジー）と、高熱、嘔吐、下痢を起こすカニコーラ型の2つです。アウトドアで活動する犬ほど感染しやすいので、予防が大切です。

一般社団法人 日本小動物獣医師会 作成

ワクチンで予防できる猫の病気

病　　名	症　　状
猫ウイルス性鼻気管炎	飛沫感染などによつてうつる病気です。ヘルペスウイルスによる感染症で、ひどいクシャミ、セキ、鼻炎などの呼吸器症状の他、結膜炎をひき起こします。高熱で食欲はなくなり、鼻水と涙で顔中クシャクシャ、典型的なカゼの症状がみられます。
猫カリシウイルス感染症　｜.	飛沫感染などによつてうつる病気です。かかりはじめはクシャミ、鼻水、発熱など猫ウイルス性鼻気管炎にたいへんよく似ています。症状が進むと舌や口の周辺に潰瘍ができることもあり、また、ときには急性の肺炎を起こして死亡することもあります。
猫汎白血球滅少症	猫同士の接触、屋外の土壌などからうつる病気です。白血球が極端に少なくなる病気で、パルボウイルスが病原体。高熱、嘔吐、食欲がなくなり、下痢がはじまると脱水症状となります。体力のない子猫などは、たった一日で死ぬこともあるこわい病気です。
猫白血病ウイルス感染症	グルーミン、噛み傷などからうつる病気です。白血病やリンパ腫、貧血、流産などを起こします。病気に対する抵抗力（免疫）が弱まるため、いろいろな病気も併発しやすくなります。一般的には、体重減少、発熱、脱水、鼻水、下痢などの症状がみられまれます。感染してから発病までの期間がたいへん長く、その間は見かけ上健康にみえますが、その間ウイルスを排泄し続け他の猫へうつします。
猫エイズウイルス感染症	猫同士の唆み傷などからうつる病気です。感染してから発症までの期間が長いことが多く、発症すると数々の慢性で難治性の症状（口内炎、鼻炎、腸炎など）がみられ、末期のエイズ期には痩せ衰えた免疫不全の状態になり死亡します。ヒトに感染することはありません。
猫クラミジア症	猫同士の接触などからうつる病気です。クラミドフィ・ラ・フェリスによる感染症。菌は眼や鼻から侵入するため、結膜炎、鼻水、クシャミ、セキがみられます。肺炎を起こすこともあります。トに感染して結膜炎が起きた例も報告きています。

一般社団法人 日本小動物獣医師会 作成